

事例研究報告

高等部生徒が就労に必要な言葉遣いを身に付けるための支援

生徒の実態

- おとなしく自分から友達や教師に話しかけることはあまりない。
- 複雑な会話内容は理解が難しい。
- 名前を呼ばれても返事がなかったり、うなずいたりするだけの時も多い。
- 「はい」と返事をする場合でも、声が小さく聞こえづらい。
- 状況に応じた言葉遣いは、まだ身についていない。
- 指示されたことが分からなくても質問ができず、適当に自分が思ったように処理してしまう。
- ミニカーを集めること、野鳥の絵を描くこと、ゲーム等が好き。

保護者の願い

- 卒業後は、まずは就労継続支援B型の事業所から始めて、そこからA型等にステップアップしていきたい。

教員の願い

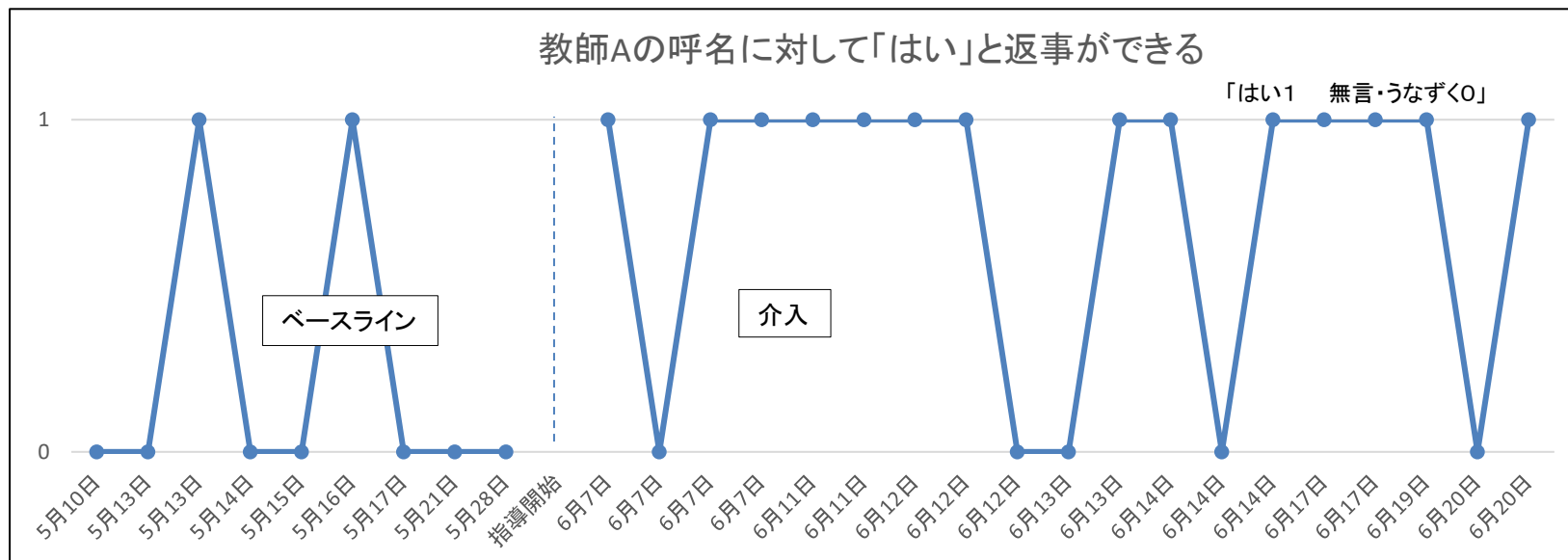
- 将来の就労に向けて、必要な言葉遣いや態度等を身につけてほしい。
- 質問をする等のコミュニケーションがスムーズにとれるようになってほしい。

指導目標の案

(誰にでも、大きな声で)

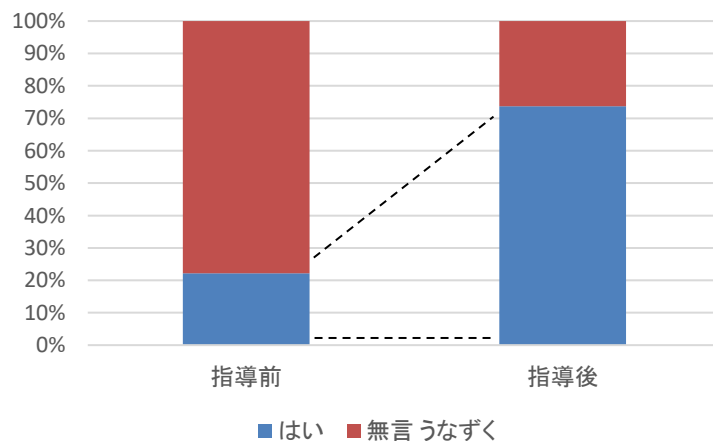
- 呼名に対して「はい」と返事ができる。
- 指示に対して「はい、わかりました。」と返事ができる。
- 教師が忙しそうな時に「〇〇先生、お仕事中すみません。今よろしいですか。」と話しかける。

目標:呼名に対して「はい」と返事ができる



・介入・・・集団SSTの授業を実施、自然な場面での指導

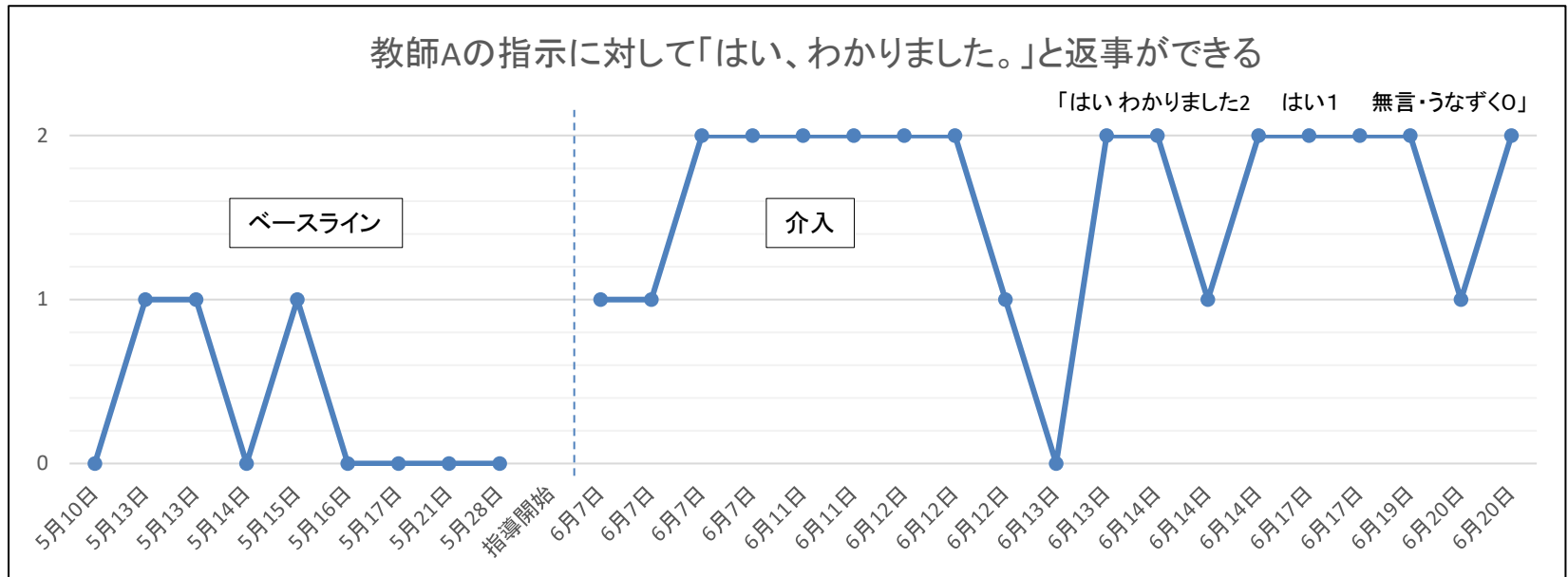
指導前と指導後の比較



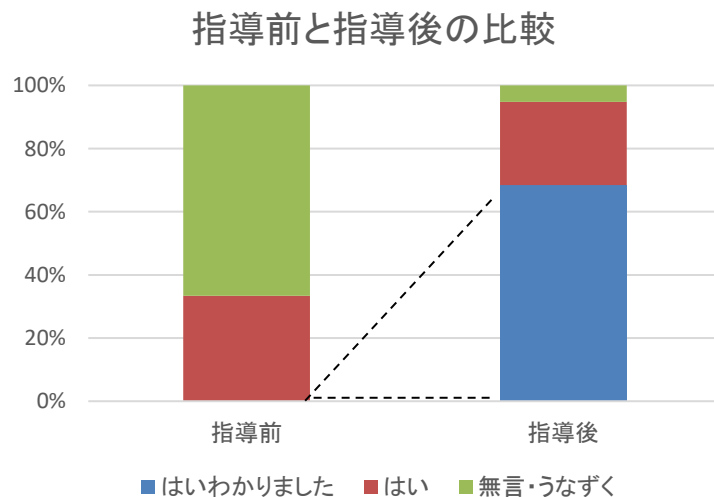
6月7日の授業で1回目の集団SSTを実施した。その後、授業中、休憩時間中に名前を呼び、記録した。

返事ができることが多くなった。ただし声量は毎回小さい。

目標：指示に対して「はい、わかりました。」と返事ができる



・介入・・・集団SSTの授業を実施、自然な場面での指導



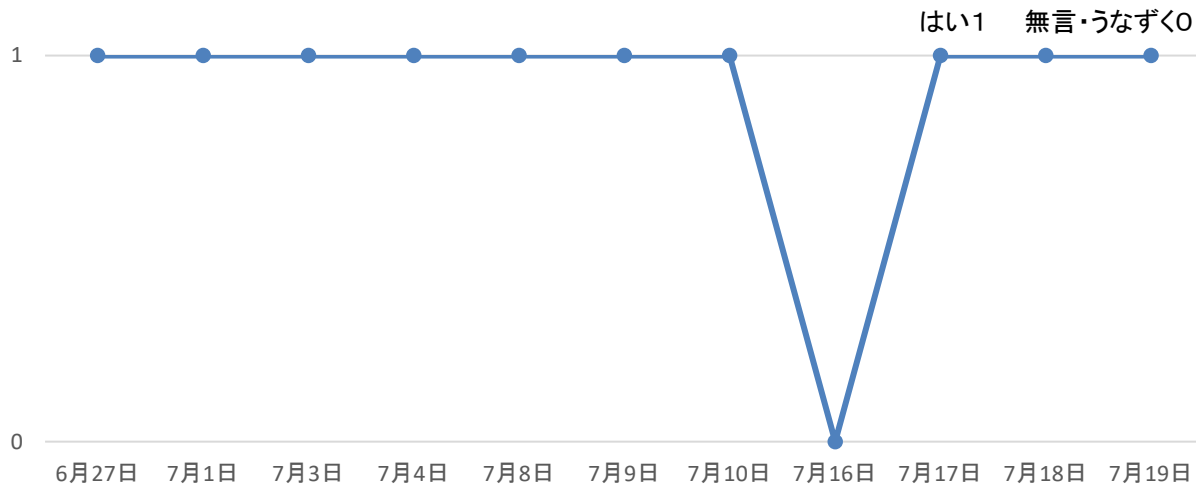
6月7日の授業で1回目の練習を実施した。「“はい”でも間違いではないが、この機会にできるだけ学習した言葉を使ってみよう」と説明した。

授業中、休憩時間中に「～してください」と生徒に指示をし、記録した。

言葉はある程度使えるようになったが、声量は小さい。

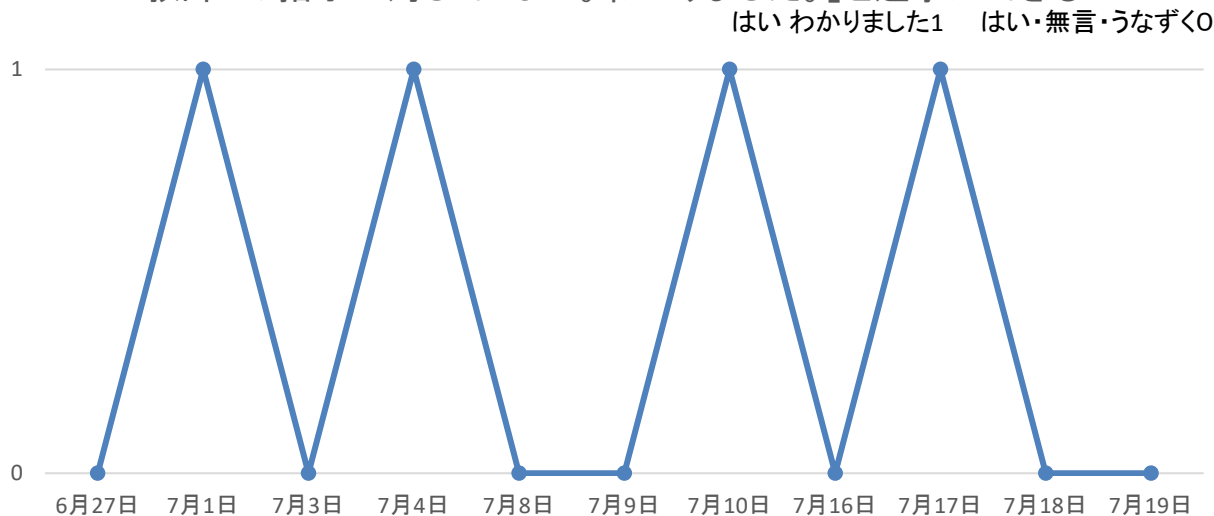
教師Cに対しても言えるかどうか

教師Cの呼名に対して「はい」と返事ができる



ベースラインは記録していないが、6月7日の指導後、教師Cに対しても呼名に対する返事は比較的よくできている。声量は小さい。

教師Cの指示に対して「はい。わかりました。」と返事ができる



ベースラインは記録していない。指導後、教師Cに対して「はい。わかりました。」が言えたのは、全体のおよそ3分の1。

教師Bに対しても言えるかどうか

教師Bの呼名に対して「はい」と返事ができる

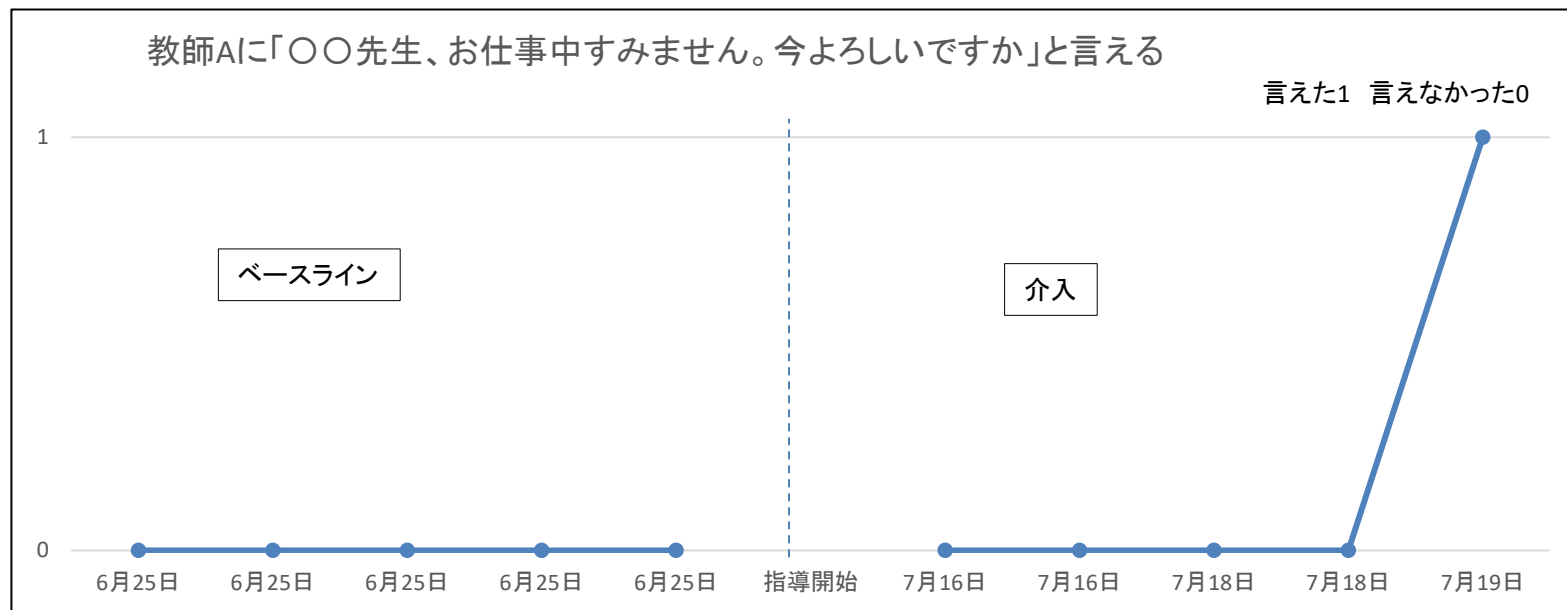
	はい	無言・うなづく
6月26日	○	
7月 3日	○	
7月 3日	○	
7月10日	○	

教師Bの指示に対して「はい、わかりました。」と返事ができる

	はい わかり ました	はい	無言・うなづく
7月 3日			○
7月10日	○		
7月10日		○	

ベースラインは記録していない。6月7日の指導後、教師Bに「はい、わかりました。」と返事ができたのは3分の1。呼名に対する返事はできている。

目標：教師Aが仕事をしている時に「〇〇先生、お仕事すみません。今よろしいですか。」と話しかけることができる。



・介入・・・集団SSTの授業を実施、自然な場面での指導

7月12日の授業で練習を実施した。直後は言葉自体を覚えていないこともあり、学習した言葉を使うことはできなかった。その都度練習をして、7月19日に1回自発的に使うことができたが、次の日から夏休みに入り、指導が途切れた。

助言内容

○般化のポイント

- 集団SSTの後に職員室に行って練習する等、様々な場面、人、状況下（自然環境）での練習が必要。
- 教職員間、本人、保護者間で支援目標の共有をすることが大事。
- 人に何か聞いた時にネガティブな反応があると、人に聞くことをしなくなる。人に聞くと得ですよ、という経験があるとよい。

○次の支援目標の設定

- 質問することや助けを求めることが次の課題。
- 「すみません。今お時間よろしいですか？」のような、より汎用性のある言葉を教えてもよい。
- 就労につながる行動のリストのようなものがあるとよい。
- 声の大きさの指導をすること自体はよいが、本人には難しいことを求めることにもなるので、「相手に伝わる程度の大きさ」でよいという考え方もある。

助言を受けての見直し

- 「今、お時間よろしいですか？」という、より汎用性のある言葉を目標に設定した。
- 主担当(教師A)以外の教師を相手に練習したり、指導を受けたりする機会を増やした。
- より個別的な目標の指導のために、10月より週2回SSTの時間を設定した。
- 声量の指導は、「相手に聞こえる程度の大きさ」でよいとするが、あまりにも小さいときには、再度言い直しをさせるなどの指導を行った。

指導の手続き

○獲得した行動の般化について

- 主担当(教師A)以外の教師を相手に「お仕事中すみません。」等の練習を、まず設定された場面で行い、次に自然な場面で実施した。
- 校内実習期間、対象生徒が属する委託班の教師が対象生徒に呼名と指示を行い、「はい、わかりました。」の返事ができたら称賛する等の指導を行った。

○より個別的な課題について

- 毎週(水)、(金)にSSTの時間を設定し、ロールプレイ等で練習した。
- SSTは教師2名、生徒2名で実施した。時間は1回10分程度。

・SSTの手順

- | | |
|------------|------------------------|
| 1 説明 | ・・・なぜその行動が必要か等を説明 |
| 2 手本を見せる | ・・・教師が実際に行動を実演して見せる |
| 3 実際に練習する | ・・・生徒同士、教師相手に練習する |
| 4 フィードバック | ・・・良い点、改善点を伝え、繰り返し練習 |
| 5 自然な場面で指導 | ・・・授業等で機会を設定し、必要に応じて指導 |

記録方法と記録

(記録者)

日付	名前を呼ばれて 「はい」	「はい。わかりました。」	備考
12月20日	○	×	(何かあれば記入)

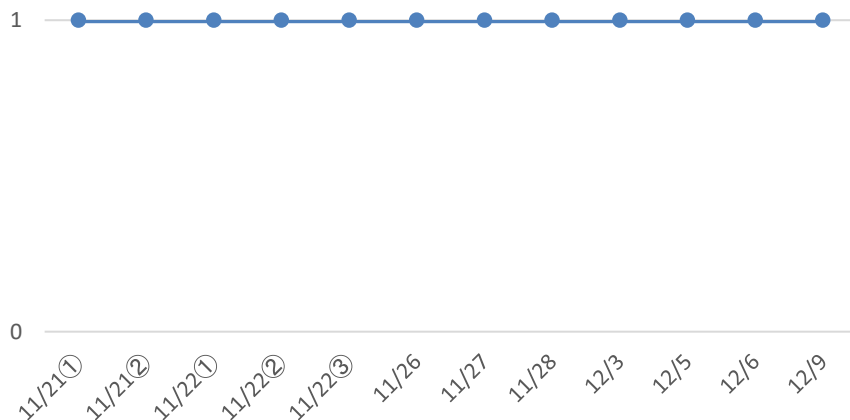
○できた ×できなかった

- 関係教師には上の記録用紙を配付し、記録の仕方を説明した。
- 校内実習の前には、対象生徒の属する委託班の教師に記録用紙を配付し、目標と記録の仕方、指導方法等について説明した。

教師Cに対し「はい」「はい、わかりました。」と返事ができたか

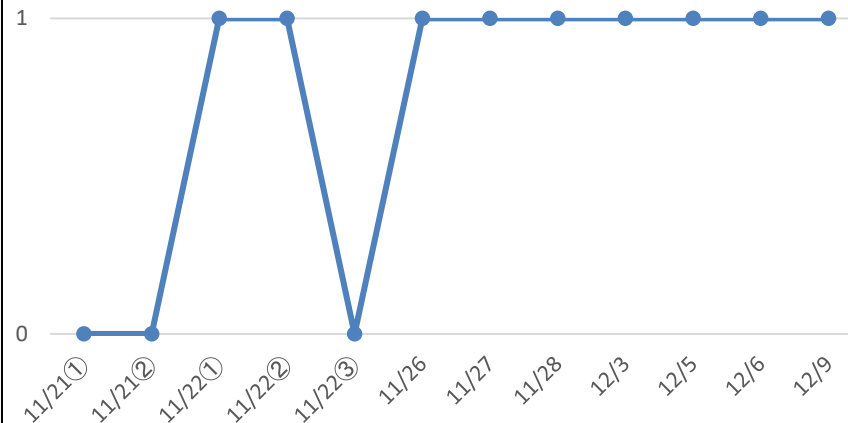
教師Cの呼名に対して「はい」と返事ができたか

はい1 無言・うなずく0



教師Cの指示に対して「はい、わかりました。」と返事ができたか

はい、わかりました1 はい・無言・うなずく0

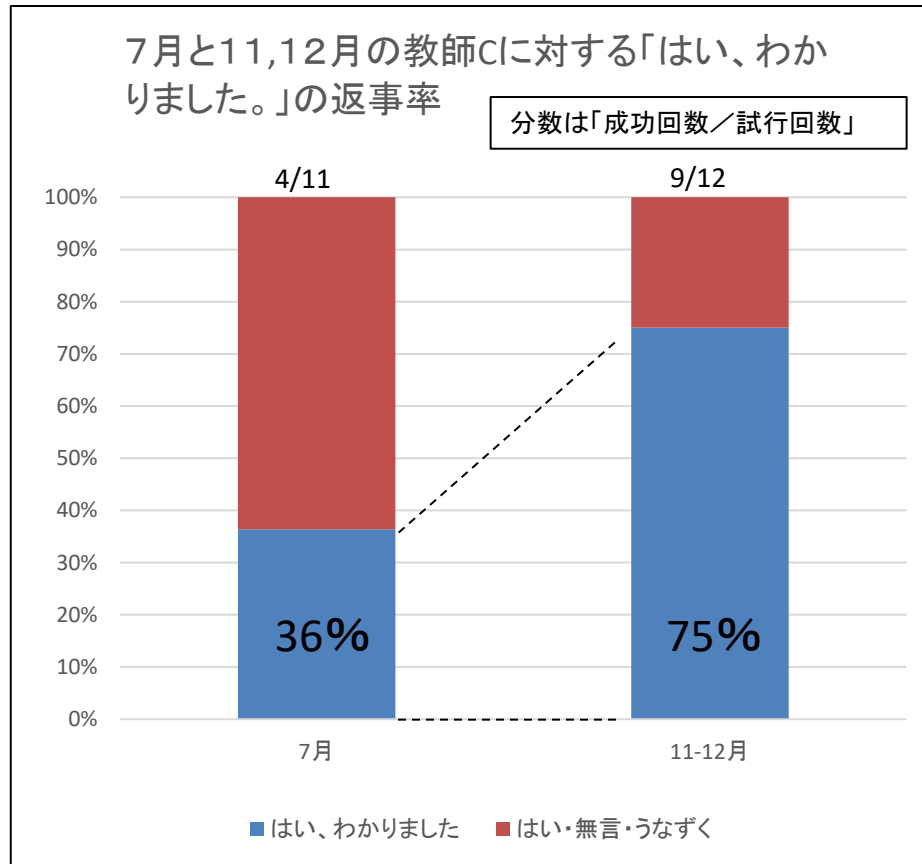


・介入・・・個別指導を実施、自然な場面での指導

○指導内容

- ・ 教師Cが対象生徒に1日1回の個別練習を行った。
- ・ 教師Cが授業等の自然な場面で対象生徒に呼名、指示し、返事ができなければ、その場で再度練習した。
- ・ 11月下旬以降、「はい、わかりました。」と返事をすることが増えた。

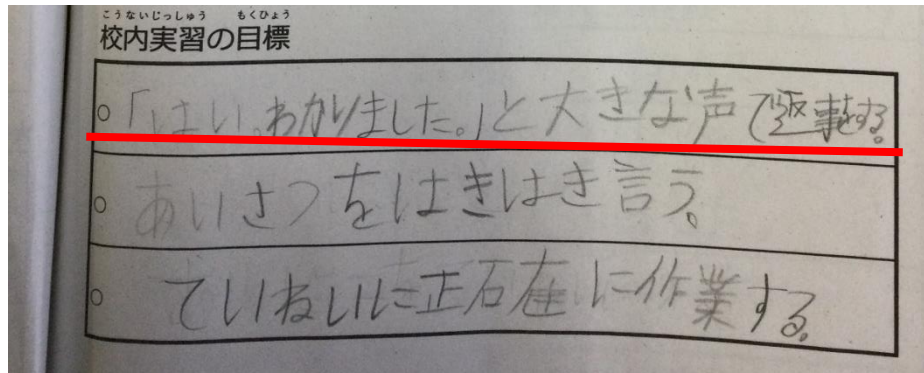
教師Cに対し「はい」「はい、わかりました。」と返事ができたか



- 「はい、わかりました。」と返事ができたのは7月は36%だったが、11、12月は75%に増加した。

校内実習期間の般化に向けて

- 校内実習前に対象生徒が属する委託班の教師と、指示の仕方、指導の仕方、記録の取り方等を共有した。
- ①「比較的ゆっくりした口調で」「相手の顔を見ながら」指示をすると対象生徒は「はい、わかりました。」と返事することが多い。
- ②言えなければ再度指示し指導してほしい、ということを説明した。
- 対象生徒自身が目標を意識できるように実習日誌に目標を書き、セルフモニタリングのための自己チェックシートを作成した。



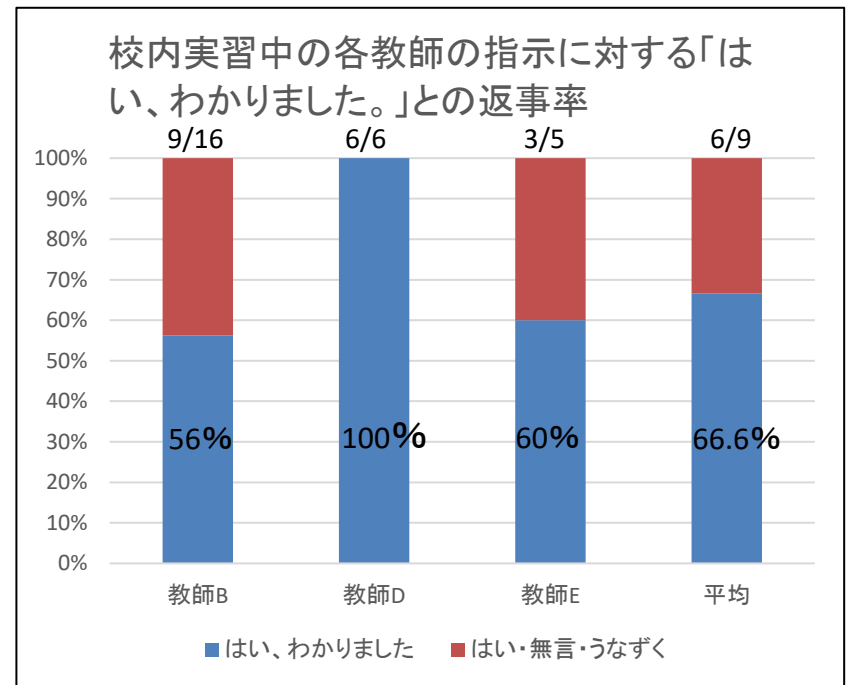
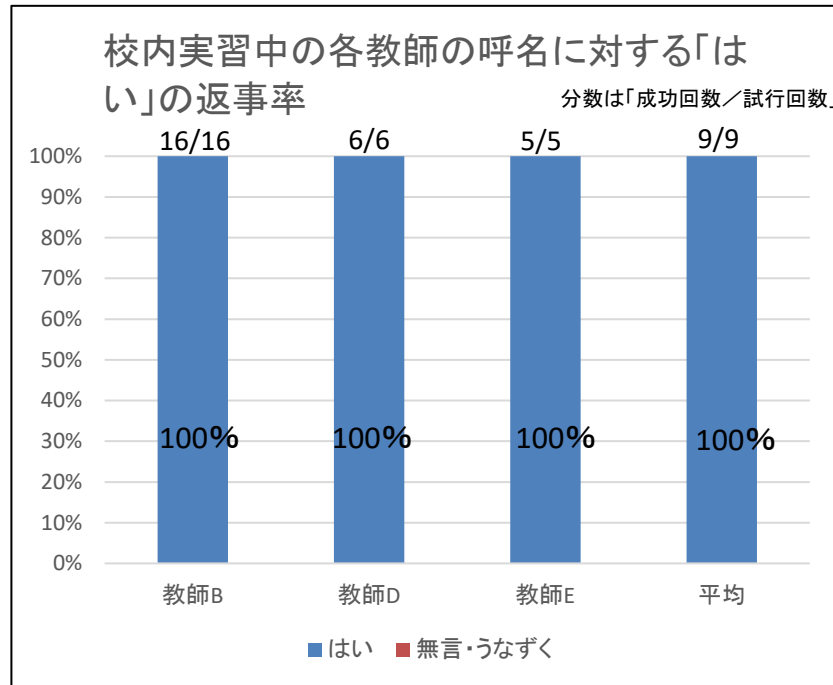
目標『「はい。わかりました。』と大きな声で返事をする。』を本人と相談の上で設定した。

「はい。わかりました。」が言えるようにがんばろう！

日付	1	2	3	4	5
12月3日	○	○	○		
12月4日	○	○	○	○	
12月5日	○	○	○	○	○

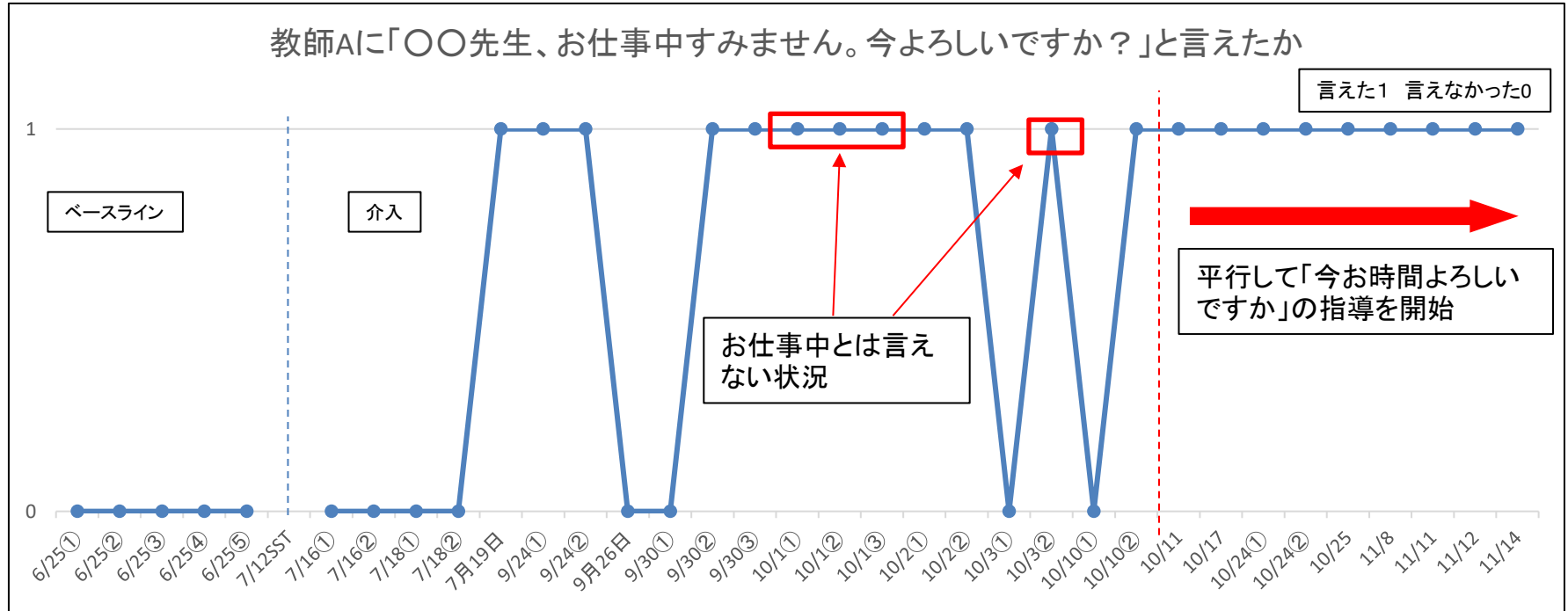
自己チェックシートを作成し、実習日誌にはさんだ。

校内実習中(4日間)に教師B、D、Eに「はい」「はい、わかりました。」と返事ができたか



- 結果として、教師Dには「はい、わかりました。」と確実に言えている。教師Dは、意図的にゆっくりした口調で対象生徒の目を見て呼名、指示していた。
- 教師Bは普段と変わらない口調で指示することも多く、言えない時にやり直しを指示しないこともあった。これらの対応の違いが結果に表れたとも考えられる。

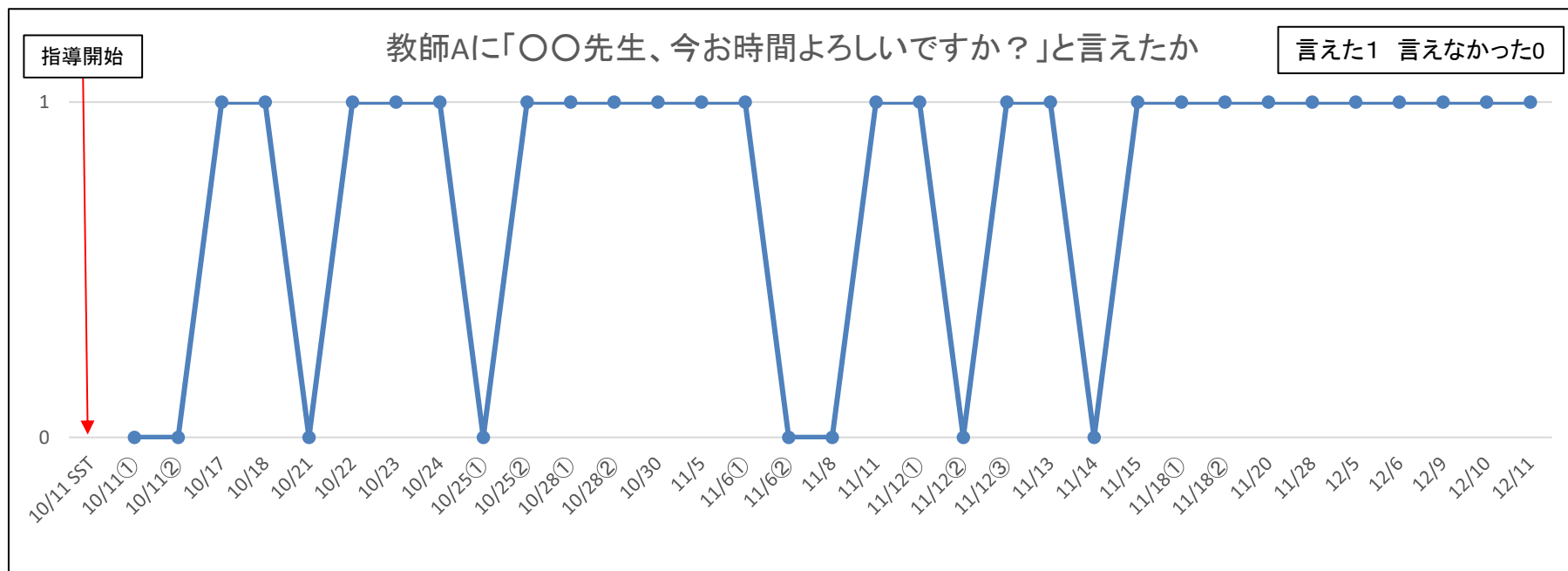
教師Aに「〇〇先生、お仕事すみません。今よろしいですか？」と言えたか



・介入・・・集団SSTの授業を実施、自然な場面での指導

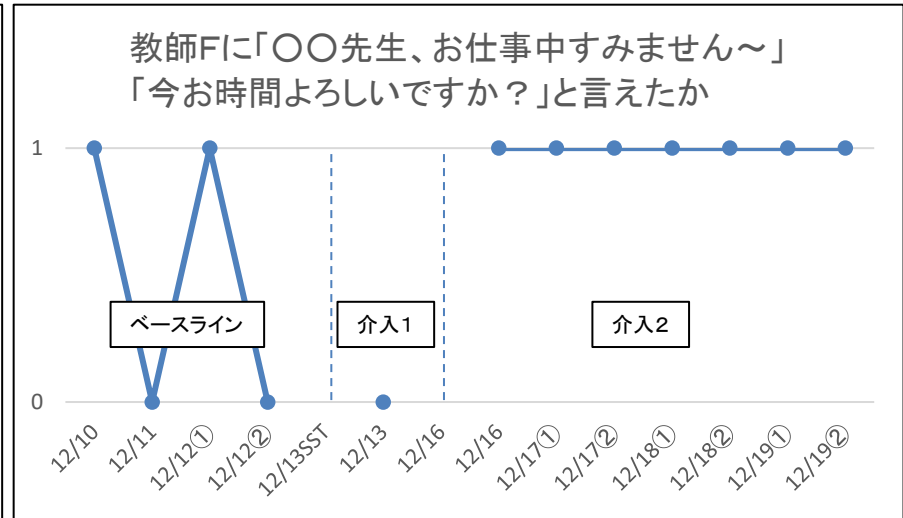
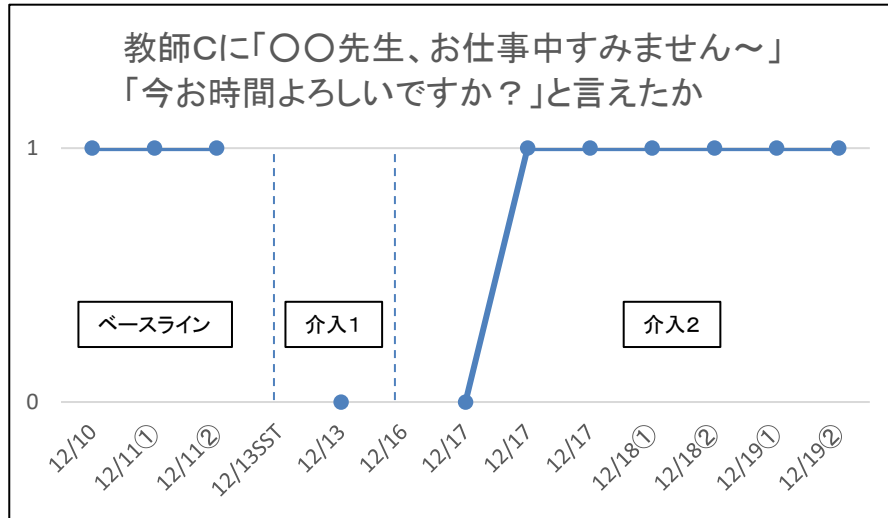
- 教師が休憩しているような状況でも「お仕事すみません。」と話しかけることがあった。他にレパトリーがなく、その言葉を使うしかないと考えられたため「今お時間よろしいですか？」の言葉の指導を平行して進めた。

教師Aに「〇〇先生、今お時間よろしいですか？」と言えたか



- ベースラインは記録していない。指導法は「お仕事中～」と同様、集団SSTを実施し、その後、授業等の自然な場面で指導した。
- 教師がiPadを見ていたり、連絡帳やプリントを見ているとき、作業しているときは「お仕事中」、特に何もしていないときは「今お時間よろしいですか？」を使うように実演して見せ、「どっちな？」と質問しながら使い分けを教えた。
- 「お仕事中～」と「今お時間よろしいですか？」の使い分けができるようになった。

教師C・Fにも「〇〇先生、お仕事中すみません～」 「〇〇先生、今お時間よろしいですか？」と言えたか。



- ・ベースライン・・・「他の先生にも勉強した言葉を使いましょう」という口頭のための指導
- ・介入1・・・いろいろな教師(C、Fを含む)を相手にSSTの実施、自然な場面での指導
- ・介入2・・・ごほうびの設定、登校後の練習、自然な場面での指導、用件の統一

- ・介入1の直後に教師C・Fに言葉を使えなかったため、急遽介入2を設定した。
- ・介入2では「今お時間～」と言い慣れていないことから来る負担感を減らすために登校後にスライドを見ながら練習を行った。また動機付けのためにごほうび制も導入した。
- ・教師に話しかける用件自体が「言える／言えない」に影響することが分かり、介入2では「教師に教材を届ける」という用件に統一した(例えば、連絡事項を伝えることに気を取られ、「お仕事中～」等を言い忘れる)。

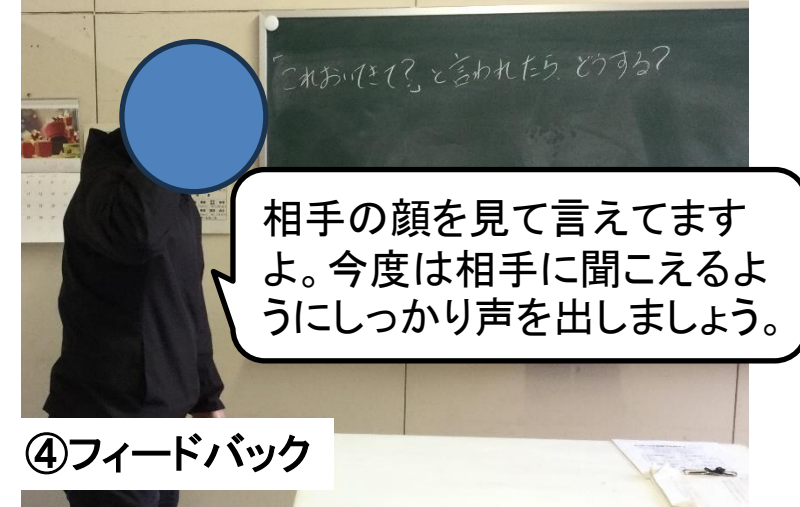
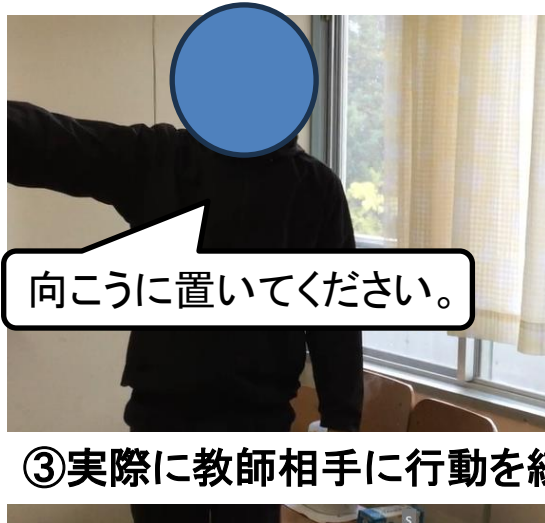
より個別的な課題の指導について SST実施内容

10~12月実施	
10月23日	「どこですか」「ここですか」
25日	どれですか？ 持ってきました。
11月5日	持ってきました。次は何をしたらいいですか？
6日	雑談の練習
8日	相づちをうつ
13日	相づちをうつ、質問をする、答える
15日	メモをとる
20日	相づちを打ちながらメモをとる
22日	トイレに行ってもいいですか
27日	すみません、気を付けます
29日	実習初日の挨拶
12月6日	お先に失礼します/お疲れさまでした

10~12月は、より個別的な課題について、昼休みの10分間を利用して週2回SSTを実施した。

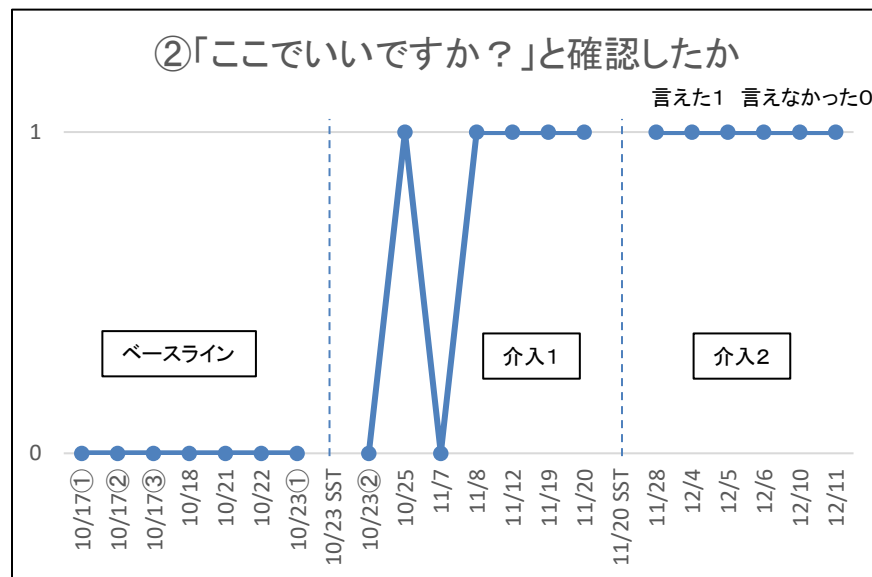
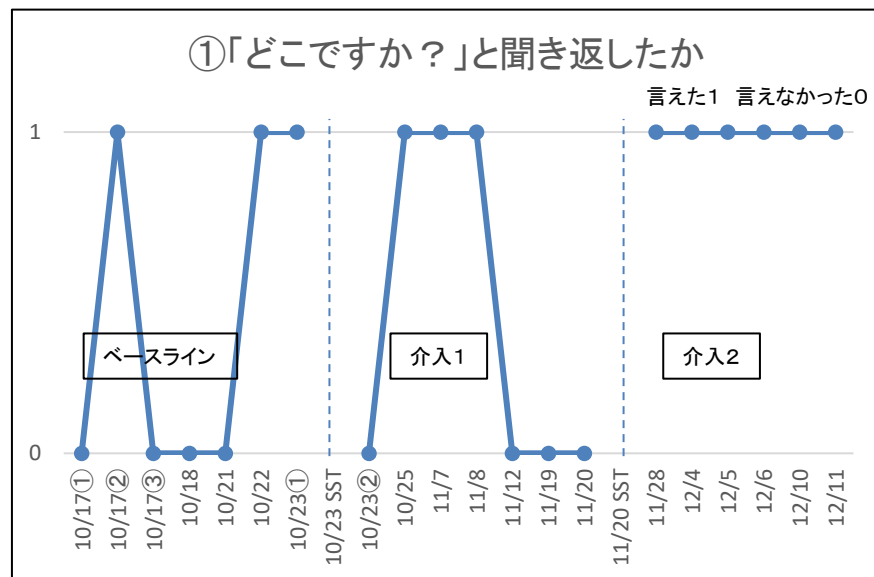
赤字は特に記録を取り集計した目標

SSTの様子



⑤自然な場面で指導 教師が授業中や休憩時間等に対象生徒に「これ置いてきて」と指示し、良い点を具体的に称賛する、改善点を伝える、その場で行動の練習を行う等の指導を行う。

目標①「これ置いてきて(持って行って)」の指示に「どこですか?」と聞き返す。
 目標②指示された場所に持って行き「ここでいいですか?」と確認する。

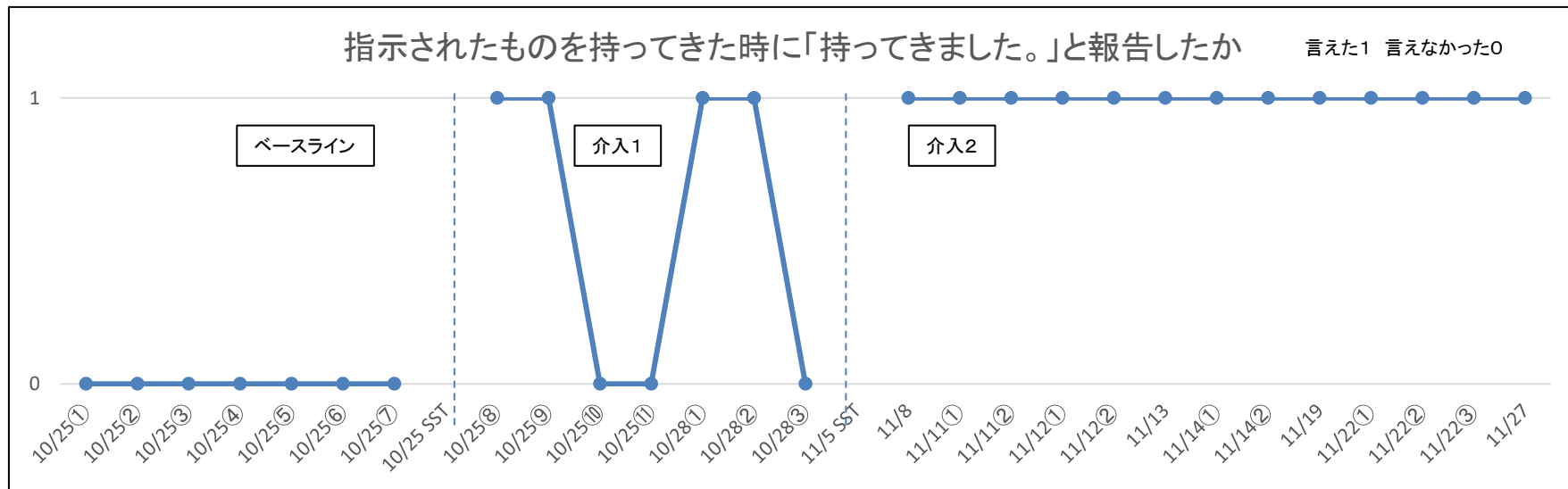


※記録は教師AIに対する行動

- ・介入1・・・SST実施(1回目)。授業等の自然な場面での指導
- ・介入2・・・SST実施(2回目)。引き続き自然な場面での指導

SSTの指導: ①指示されたら聞き返さずに勝手な場所に置く例を見せ、教師は生徒に「これでいいでしょうか?」と問いかけ、すべき行動を説明する。②教師が生徒役と教師役に分かれ、実演して手本を見せ、「分からなければすぐに聞き返すこと」等、ポイントを説明する。③教師相手に練習を行う。④「すぐに聞き返せてるね。」「相手の顔を見て言いましょう。」等、良い点と改善点を伝え、再度練習をする。⑤授業等の自然な場面で練習し、指導する。

目標：指示されたものを持ってきた時に「持ってきました。」と報告する。

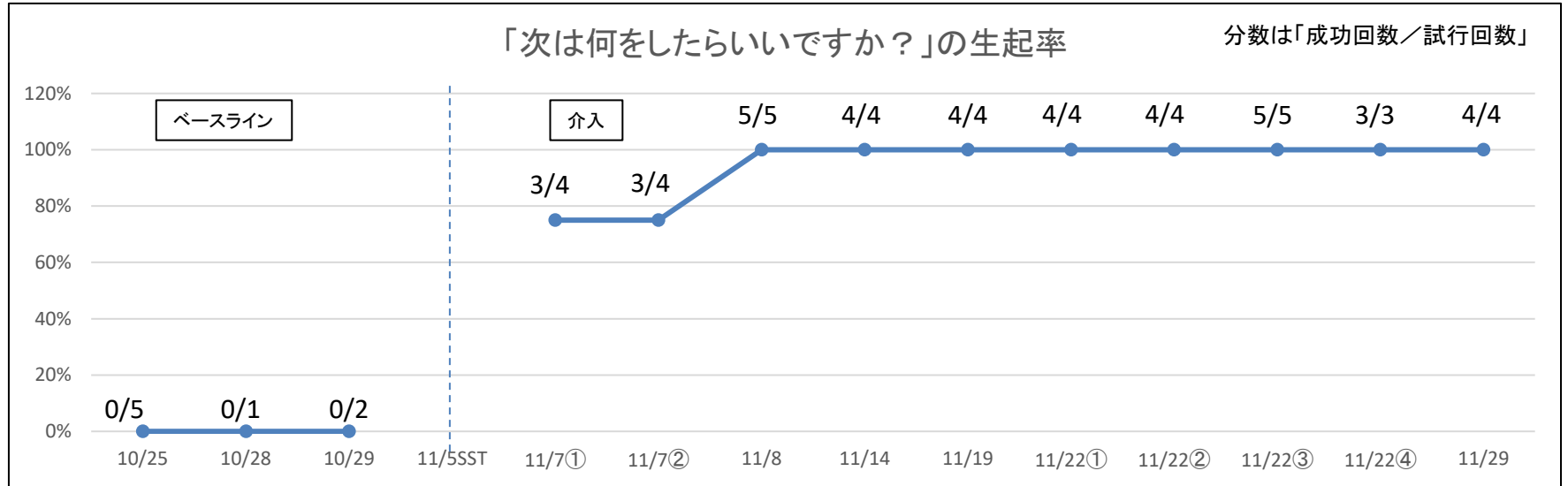


※記録は教師Aに対する行動

- ・介入1・・・SST実施(1回目)。授業等の自然な場面での指導
- ・介入2・・・SST実施(2回目)。引き続き自然な場面での指導

SSTの指導：①指示されたものを敢えて無言で渡す例を見せ「何かおかしくないかな？」と教師が問いかけ、どうしたらいいかを説明する。②教師が生徒役と教師役に分かれ、手本を演技して見せ、「持ってきました。」の報告の仕方、相手への渡し方等、ポイントを説明する。③実際に生徒が教師相手に練習する。④「渡し方が丁寧でいいですね。」「声をもう少し出した方が伝わりますよ。」等、良い点と改善点を伝え、再度練習する。⑤授業等の自然な場面で練習し、指導する。

目標：指示された作業が終わった時に「できました。」に続けて「次は何をしたらいいですか？」と聞くことができる。



※記録は教師AIに対する行動

・介入・・・SST実施、授業等の自然な場面での指導

SSTの指導：①敢えて「次の工程を聞かない例」を見せ、「こんな時どう言えばいいかな？」と問いかけ、すべき行動を説明する。②教師が教師役と生徒役に分かれ、手本を演技して見せ、「次は何をしたらいいですか？」と聞くタイミング、声の大きさ、姿勢等、ポイントを説明する。③実際に生徒が教師相手に練習する。④「できました、に続けてすぐに言えています。」「作業が完全に終わってから報告しましょう。」等良い点と改善点を伝え、再度練習する。⑤授業等の自然な場面で練習し、指導する。

指導の成果

- 自立活動の時間に自ら「すみません。もう一度お願いします。」と言えた。
- 「はい、わかりました。」「今お時間よろしいですか？」「次は何をしたらいいですか。」等の行動のレパートリーが増えた。
- 獲得した行動を主担当だけでなく、他の教師にも使うことができた。
- 類似した課題として「あれ持ってきて」と言われた時に「どれですか？」「これですか？」と聞くことも教え、できるようになった。
- チームでの目標や指導方法の共有、特に細かな点まで共通理解することが般化につながることが示された。
- 指示の仕方、報告する内容等、微妙な条件の変化が生徒がスキルを使えるかどうかに影響することが分かった。